

## 8 施設・設備等

### 【目的・目標】

専門に特化した最先端の教育・研究設備、機器を導入するとともに、学生が安全で快適な環境で教育を受け、また教員がより効率的な研究を行える施設・設備を整備することにより、各学部・学科の教育目標を実現することを目的とする。これを推進するため、適切な計画立案、既存の施設・設備の維持及び衛生・安全の管理を円滑に運営できる組織体制を構築する。

### 8-1 大学・大学院における施設・設備等

#### 【現状の説明】

本学のキャンパスは厚木キャンパスと中野キャンパスからなる。従来、厚木キャンパスは工学部全学年・工学研究科及び芸術学部1、2学年、中野キャンパスは芸術学部3、4学年及び芸術学研究科が使用していたが、2007年4月マンガ学科設立及びアニメーション学科ゲームコース設置に伴い、12号館を建築(2007年7月竣工)し、年々、厚木キャンパスにおける芸術学部の使用割合が増加している。

厚木キャンパスは校地面積19万㎡余りと広く、施設・設備等も多い。教育目標を実現し、より教育効果を高めることができるよう、8年程前から教室の整備、特にAV化工事、老朽校舎の建替等を精力的に行ってきた。旧2号館跡地を学生のいこいの広場とした後、旧1号館を取り壊して12号館を2007年8月に竣工する等して建築物の再配置が進んだため、キャンパスの景観も整備された。

引き続き、2008年度中においては、学生会館、13号館及びクラブハウス棟の全面改修工事を行い、大学のキャンパスらしい落ち着いた雰囲気醸成しつつある。中野キャンパスは4年前に芸術情報館が竣工したが、その他の建物は老朽化が進んでおり建替える時期に来ている。

#### 【点検・評価】【長所と問題点】

キャンパス整備については、大学協議会の下に設置された各キャンパス整備委員会が各学科のカリキュラムや教育目標に基づく要望・意見の収集・調整や計画のとりまとめを行い、新学科の設置や年度進行に伴い必要な施設設備等の充実を目標に、新校舎の設置計画や既存校舎の再配分等具体策を検討している。

厚木キャンパスでは、2004年度の工学部再編に伴う研究室再配分等が完了しているが、その後の各学科の学生定員の変動に、学科割り当ての面積が対応できていない問題点等が発生している。

メディアを活用した新しい授業形態に対応するためのAV化工事は毎年度実施しており、ほぼ完了しつつある。耐震化、アスベスト飛散防止などについては、問題のあった校舎について2008年度中に改修工事を完了している。2007年4月マンガ学科設立及びアニメーション学科ゲームコース設置に伴い、12号館を建築(2007年7月竣工)し、各学部・コ

スを特性の生かした設備を導入し、教育・研究環境を整備した。メディアを活用した新しい授業形態に対応するためのAV化や、耐震化、アスベスト飛散防止などについては、ほぼ計画の大半の整備が終った。ただし、少人数制授業を実施するための小規模講義室が十分な水準ではない。

中野キャンパスでは、キャンパス移転等の検討をしていたが、結論に至る見通しが付かなくなったため、2007年10月のグランドデザイン策定委員会にて、次の基本方針が決定された。①芸術学部全学科（当面デザイン学科ヒューマンプロダクトコースは除く）の3・4年次生を中野キャンパスに集結する。②中野キャンパスをメディア芸術の拠点とする。③学生の教育及び学園生活の充実を最優先とする。同基本方針は同年12月25日の理事会・評議委員会にて承認され、同日理事長裁定による中野キャンパス整備推進体制が通達された。当推進体制は、中野キャンパス整備委員会、整備事務室及び法人事務局によるプロジェクトが組織され、2009年4月着工に向け協議を実施した。しかし、当整備計画は6年から7年間継続する事業であるため、現在在籍する学生に対する教育・研究の環境整備は同時並行で推進する必要があるため、メディアを活用した新しい授業形態に対応するためのAV化、セミナー室の防音工事、遠隔講義システムの導入など、授業運営に資する施設・設備の更新を進めている。

## 8-2 各キャンパスにおける施設・設備等

### 8-2-1 厚木キャンパス

#### (1) 施設・設備等の整備

##### 【現状の説明】

##### (1) 校地、校舎等の状況

厚木キャンパスは神奈川県厚木市飯山にあり、校地面積は 194,492 m<sup>2</sup>、校舎面積は 73,475 m<sup>2</sup>（いずれも 2008 年 5 月 1 日現在）である。

##### (2) 教室・研究室等の整備状況

厚木キャンパスでは現在、工学部全学科及び大学院工学研究科全専攻、芸術学部の 1～2 年次全学科及び一部学科の 3～4 年次の授業が開講されている。教室・研究室が設置されている敷地は、道路を挟んで東側と西側の 2 つに大別される。東側には本館等の講義・演習室棟や工学部各学科の演習・実験室棟、大学院工学研究科風工学研究センター棟などと芸術学部マンガ学科・アニメーション学科ゲームコースの 1 2 号館がある。西側には芸術学部デザイン学科、メディアアート表現学科、アニメーション学科の演習・実習室棟と工学研究科ナノ科学研究センター棟がある。情報処理機器は、本館の 6 つの PC 演習室を中心に 914 台を設置し、毎年計画的に機能更新を実施し、教育環境整備が図られている。なお、各教員には研究室が整備されており、教育研究のためのスペースが確保されている。

##### (3) 研究機関の整備状況

工学研究科には文部科学省の私立大学学術研究高度化推進事業により設立された連携最先端技術研究センター、風工学研究センター、ナノ科学研究センター、ハイパーメディア研究センターの 4 つの研究センターがある。

特に建築学専攻は、2003 年度に文部科学省の 21 世紀 COE プログラムに採択されたことにより、関連する風工学研究センターの施設・設備の充実が一層進展したことに引き続き、2008 年度にグローバル COE プログラムにも採択され、風工学の世界的拠点の一つとなっている。

##### (4) 先端的な設備・装置

先端的な研究設備・装置の整備にあたっては、文部科学省補助金や学内助成（特別研究教育助成費）を活用して推進している。学外研究機関との連携も、前述の研究センター等が中心となり推進している。

##### (5) 福利厚生施設

###### (a) 健康管理センター

看護師が常駐し健康や生活上のさまざまな相談を受けている。毎週水曜日には精神科嘱託医師も相談を受けているが、学生本人のみならず保護者からの相談も受け、学生生活の支障となるような健康・生活上の問題を早期に解決している。2008 年度の相談件数は 1,274 件である。

(b) 学習支援センター

高校での教育経験が豊富な専任のチューターや工学部基礎教育研究センター教員が、学生一人ひとりの基礎学力の向上を図るため、懇切丁寧な寺小屋的な個人指導を展開している。

(c) 学生支援センター<HOME>

学生の修学その他学生生活に関する相談業務を行うことを目的に2009年4月の正式な開所を前に3月にプレオープンした。臨床心理に関する専門知識、経験を有するカウンセラーが学生の各種相談の助言・指導を行っている。2009年3月の1ヶ月間(延べ28日間)での相談件数は73件である。

(d) 学生ホール・食堂施設・購買施設

学生ホールは、学生会館<Cube>1階(469㎡)、8号館2階(350㎡)及び1号館横学生ホール(食堂共用)の3カ所を設置している。学生食堂は、8号館1階「MESA」(634㎡)と1号館横「FUENTE」(477㎡)の2カ所を設置している。売店は、8号館2階「SERVI」と1号館横に設置している。食堂・売店の運営はともに大学生協に委託している。

(e) 課外活動施設

体育系部活動用に体育館に部室18室、文化系部活動用にクラブハウス6棟を整備している。

築年数が20年を経過したクラブハウス棟については、学友会から用途変更等の要望を聞き取り調査した上で改修工事に反映し、2009年3月に竣工した。

(6) 光熱水費

図8-1に過去3年間の光熱費の状況を示す。

2008年度の光熱水費は電気料金141,239千円、上下水道料金16,163千円、ガス料金11,999千円であった。ここ数年、節電等の省エネルギー対策を実施しているが、エネルギー価額の高騰等により、経費も上昇傾向にある。

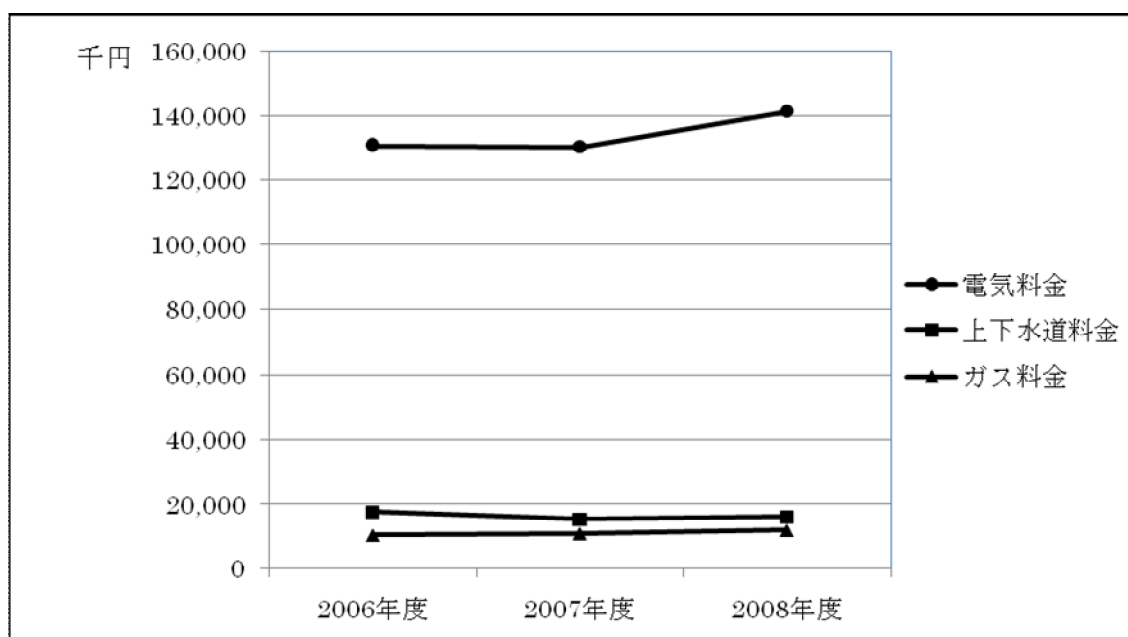


図8-1 過去3年間の光熱水費の推移

## 【点検・評価】【長所と問題点】

### (1) 教室・研究室等

学生定員 100 名に対して学科占有床面積を 2,500 m<sup>2</sup>とする原則を立て、これに基づいて各学科への面積配分を行っている。この配分にあわせて、各学科の授業特性に対応した演習室等の整備と、研究環境の整備を進めている。

工学部では、学科によっては複数の棟屋に研究室が分散し、かつ、指導教員居室と学生居室が飛び地になっている等、コミュニケーションが取りづらい状態がある。また、各学科の学生定員の変動に伴う学科割り当ての面積の是正等を行う課題が残っている。

また、講義室の AV 化工事も補助金等の活用で整備が進み、学生の授業での理解度増進に役立っている。

具体的な講義室の整備状況については、図 8-2 に示すとおりである。

図 8-2 厚木キャンパスにおける講義室への AV 設備整備状況 (2009 年 3 月現在)

年度	整備講義室名	整備室数	整備内容
2007	1021、1022、1023 教室	4	ワイヤレスマイク
	1111 教室		DVD
2008	911、912、921、922、734 教室	5	プロジェクタ、スクリーン、DVD、VHS、等

\*陳腐化、老朽化した設備は随時更新中

### (2) 工学研究科

これまで、先端的な研究設備の導入については、補助金等の外部資金の活用など、競争的資金を主として先端的な研究活動に必要な設備・装置の整備を図ることで、より効率的な整備が推進されてきた。

研究施設・設備の整備に伴い、設備保守費の負担も増加してきているため、高額な保守契約については、特別予算事業として厳正に審査を行い、経費抑制に努めている。

文部科学省の私立大学学術研究高度化推進事業により設立されたナノ科学研究センターについては、2008 年度で補助金の伴う研究期間が終了するため、その後の維持・管理コストの負担などについて、運用ルールを早急に定めることが課題となっている。

2008 年度に建築学専攻の「風工学・教育研究のニューフロンティア」が文部科学省グローバル COE プログラム (2008 年度～2012 年度) に採択された。採択 1 年目の 2008 年度は、研究活動に必要な設備・装置の整備等を進め、研究が計画どおりに遂行されている。

### (2) キャンパス・アメニティ等

#### 【現状の説明】

##### (1) キャンパス・アメニティの形成・支援のための体制の確立状況

学内環境整備は厚木キャンパス整備委員会で調整し、法人事務局管理課厚木担当が実施している。

##### (2) 「学生のための生活の場」の整備状況

学生のための憩いの場として、キャンパス中央部に広場を設け、その周囲に各種施設が

配置され有効利用されている。学生ホールは学生会館<Cube>、8号館2階及び1号館横学生ホールの3カ所に設置している。学生食堂は8号館1階と1号館横の2カ所に設置している。売店は8号館2階と1号館横に設置している。クラブハウスは学友会文化部協議会所属の各部が利用している。グラウンドに程近い体育館の部室は、学友会体育部協議会所属の各部が利用している。

### (3) 大学周辺の「環境」への配慮の状況

新校舎等の建設にあたっては周辺住民との協議や、周辺環境への影響等のシミュレーションの外部依頼等により、環境悪化をできるだけ軽減できるよう努力を重ねている。

学生長期休暇中におけるトラック等の車輛の出入りを伴う改修工事実施に際しては、事前に工事内容、期間等の工事詳細情報を自治会宛に通知し、理解を得ている。

また、大学周辺の住宅地への学生による違法駐車が指摘されて来たため、警備員の巡回によりその減少を図るとともに、大学正門付近においては交通指導員による交通安全指導を行い、暴走運転等の危険運転行為を予防している。

### 【点検・評価】【長所と問題点】

大学と学生との意見交換の場である学生連絡評議会を年2回開催している。また、2007年度には学生満足度調査を行った。これらの結果を踏まえ、学生からの環境改善の要望・提案に対しても可能な限り実現できるよう、キャンパス整備委員会等で検討しており、学生の声を生かしてキャンパス・アメニティを形成・改善する体制が確立されている。

一部老朽化が進んでおり、学友会から強い要望があったクラブハウス棟改修については、2009年3月に竣工した。事前に学友会から、用途変更等の要望を聞き取り調査した上で改修工事に反映するとともに、3度の引越についても学友会が率先して行うなど、大学と学友会が協働して実施している。

学生ホールの一つである学生会館については、耐震を考慮して2階部分を撤去した上で、1階部分にデザインが優れた什器の新調、各学科からの学内外に向けての情報発信ボードの設置、学生からの要望に基づいたトイレの洋式化、バリアフリー推進を図るスロープの設置等を施す改修工事を2008年10月に竣工した。リニューアルオープンに伴い、学生公募により、学生会館<Cube>という愛称を冠した。

2009年3月に「神奈川県公共的施設における受動喫煙防止条例」が可決、成立し、2010年4月から施行されることを受け、2009年度中に厚木キャンパス内の喫煙（禁煙）環境の改善対策を実施することが緊急の課題となっている。

この他、社会の要請や学内からの要望に見あった施設となるように、既存校舎について、引き続き再整備を促進する。

### (3) 利用上の配慮

#### 【現状の説明】

これまで、車椅子等の補助具を用いる障害を持つ学生がほとんど在籍していなかったが、建物改修の都度、スロープの設置を鋭意進めている。

また、体育館、グラウンド（野球場、サッカー場）、教室などの学内施設は、必要な手

続きをすることにより、平日及び日曜・祝日を含め早朝から夜間まで利用可能となっている。

詳細はキャンパスガイドや本学公式ホームページ上に記載しており、グラウンド（野球場、サッカー場）については、日曜日・祝日には地元野球チーム、野球少年団及びサッカークラブ等から多くの借用希望があり、本学学内行事や学生のクラブ活動が優先するものの、絶えず貸出を行っている。

#### 【点検・評価】【長所と問題点】

キャンパス全体として随時整備が進んでおり、着実に教育環境の整備が進んでいる。今後は、引き続きスロープを設置する他、エレベーター、多目的トイレの設置計画を策定する等、主要な校舎のバリアフリー化に取り組む必要がある。

学内施設の利用状況は活発で、学生のサークル活動に役立っているほか、周辺住民や外部団体等に貸し出すことにより社会貢献に寄与している。

#### （４）通学環境の改善・整備

##### 【現状の説明】

最寄り駅から大学まで徒歩通学が困難な距離であるため、主な通学手段は、バスや自転車（駐輪場約 650 m<sup>2</sup>有）、自動二輪（駐輪場約 500 m<sup>2</sup>有）や自動車（駐車場約 2,600 m<sup>2</sup>有、利用条件付き）である。バスは大学が路線バスの終点であり、学生の半数以上が利用している。近年、自転車や自動二輪などによる通学者が増加している。自転車については無料で貸し出す制度（エコチャリ）を 2009 年から開始する予定である。

##### 【点検・評価】【長所と問題点】

バスの急行便などの増便を図ってはいるが、乗車時間の集中化による混雑度、厚木市街の交通渋滞による遅延など、バス通学の不便さが学生の大学生活に対する不満につながっている。自転車等の利用はバス便の混雑緩和というメリットはあるが、自転車等の利用学生の交通ルールを遵守させるための教育や駐輪場の一層の整備、整理整頓など課題は多く残っている。また、定期的な交通事故防止の講習会開催を行っているものの、交通事故増加への懸念はぬぐいきれないため、継続的に事故防止への注意喚起等を行っていく。

#### （５）組織・管理体制

##### 【現状の説明】

キャンパス環境の整備全般については、大学協議会の下に設置された厚木キャンパス整備委員会が連絡・調整を図り、検討された事項の執行や既存施設・設備の維持管理については法人事務局管理課厚木担当が担当する体制で行われている。実験等での安全確保や廃棄物の管理等については、厚木キャンパス環境安全管理委員会で検討し、実務面や管理システムの運用は法人事務局管理課厚木担当が担当している。

## 【点検・評価】【長所と問題点】

前述のとおり体制が確立されており、キャンパス整備や施設・設備等の維持・管理は円滑に行われている。

工学研究科で使用する施設・設備は規模が大きいため、維持・管理コストの抑制が必要である。

### 8-2-2 中野キャンパス

#### (1) 施設・設備等の整備

##### 【現状の説明】

##### (1) 校地、校舎等の状況

中野キャンパスは東京都中野区本町にあり、校地面積は 9,094 m<sup>2</sup>、校舎面積は 12,623 m<sup>2</sup>である（いずれも 2008 年 5 月 1 日現在）。

##### (2) 教室・研究室等の整備状況

中野キャンパスでは、芸術学部の 3 学科の 3～4 年次、大学院芸術学研究科、芸術別科写真技術専修の授業が開講されている。講義型教室は本館及び 4 号館に配置していたが、2009 年 4 月から開始する中野キャンパス整備計画 I 期工事では、6 号館 2 階・芸術情報館 1 階メインホール及び本館 4 階法人事務局を講義型教室とする計画となった。1 号館はデザイン学科、2 号館は映像学科、3～5 号館は写真学科が利用している。

教員研究室は演習室・実習室等に隣接して配置されており、学生と教員とのコミュニケーションが円滑に図れるよう整備されている。また研究室等の設備は、最新の芸術手法・技法に対応できるよう補助金等を活用しながら機器・装置の導入や更新を進めている。

本キャンパス特有の教育施設として、「写真スタジオ」、「映像スタジオ」、「バーチャルスタジオ」の 3 種類のスタジオがある。「写真スタジオ」は全 4 室で総面積は 282 m<sup>2</sup>、各光源に対応している。「映像スタジオ」は大手映画会社が製作した室内セットを用いており総面積 156 m<sup>2</sup>で設置されている。「バーチャルスタジオ」は先端的デジタル技術を用いた撮影に対応している。また写真処理暗室を 9 室設置している。

##### (3) 芸術学研究科における施設・設備整備状況

大学院芸術学研究科の講義・演習は中野キャンパス各講義型教室と芸術情報館内のセミナー室を使用している。セミナー室の防音工事や、遠隔講義システムの導入など、授業運営に資する施設・設備の更新が進んでいる。教員の在籍キャンパスが 2 つに分かれているため、一部授業科目では厚木キャンパスとの遠隔講義を実施している。芸術情報館には大学院研究室が設置されており、院生の研究・制作活動の場を提供している。

メディアアートに関連した教育効果の向上のために、老朽化した設備は随時更新している。教育研究設備整備更新状況を図 8-3 に、講義室、演習室等の整備状況を図 8-4 に示す。

図 8-3 中野キャンパスにおける教育研究設備整備更新状況 (2009年3月現在)

年度	学科・講義室名	整備内容
2006	写真学科 デザイン学科 VC コース 普通教室 全学科・全研究科及び職員	コンピュータ実習設備導入 演習室・PCルーム増床及び機器導入 AV設備保守管理のためメンテナンス契約締結 会議の効率化を目的とした遠隔会議システム導入
2007	全学科・全研究科	遠隔講義システム
2008	写真学科 映像学科 デザイン学科 VC コース	超高画質スクリーンシステム導入 ①ビデオ編集室ハイビジョン化 ②録音機材・ダビングシステムのデジタル化 ソフトウェアの更新

図 8-4 中野キャンパスにおける学部・大学院研究科ごとの講義室、演習室等の整備状況 (2009年3月現在)

学部・研究科等	講義室・演習室 自習室等	室数	総面積 (m <sup>2</sup> )	専用・共用の別	収容人員 (人)	学生総数 (人)	在籍学生 1人当たり 面積 (m <sup>2</sup> )
芸術学部	講義室	7	827.08	専用	711	603	1.55
	演習室	48	2426.81	専用	—	603	5.68
	学生実習室	14	613.81	専用	—	603	1.02
芸術学研究科	講義室	1	83.11	専用	72	24	3.46
	演習室	3	78.64	専用	—	24	3.28
	学生実習室	2	145.10	専用	—	24	6.05

#### (4) 芸術情報館の整備状況

芸術情報館は、前述の中野キャンパス整備計画により、大幅な改修工事を実施した。既存の大学院等の教育研究機能と、大学の情報公開や社会貢献機能を維持するとともに法人事務局・会議室とを併せ持つ施設である。館内にはメインホール (240名収容)、ギャラリー、AVセミナー室、大学院研究室、セミナー室、会議室等の他に本館1階の「写大ギャラリー」を移設するとともに写真をルーツとする本学にとっての貴重な財産 (写真・写真機) を適切な環境で保管する保管室 (庫) を整備している。

#### (5) 福利厚生施設

##### (a) 保健室

学生の病気・事故等に学内の看護師が対応している。また、週1回嘱託医による相談を実施し、学生の心身のトラブルや悩みに対応している。

##### (b) 学生会館

学生会館は2階建、総床面積 354 m<sup>2</sup>で、1階が売店、2階が芸術食堂「ルネッサンス」 (座席数99席) となっている。運営はともに大学生協に委託している。

##### (c) 課外活動施設

学友会に中野支部所属団体の活動用部室を10室貸与している。

#### (6) 光熱水費

2008年度の光熱水費は、電気料金 23,110 千円 (1,113,333kWh)、水道料金 5,963 千円 (13,164 m<sup>3</sup>)、下水道料金 3,912 千円 (13,409 m<sup>3</sup>)、ガス料金 1,507 千円 (13,657 m<sup>3</sup>) で、である。

## 【点検・評価】【長所と問題点】

情報文化発信の中心地である東京に位置するキャンパスの立地環境は、メディアアーティスト育成という学部目標に大きくプラスになると思われる。一方、キャンパスの狭隘さからくる施設・設備の整備には限界がある。

かねてから検討を重ねていた中野キャンパス整備に関して、2007年10月のグランドデザイン策定委員会において次のとおり基本合意を得た。①芸術学部全学科（当面デザイン学科ヒューマンプロダクトコースは除く）の3・4年次生を中野キャンパスに集結する。②中野キャンパスをメディア芸術の拠点とする。③学生の教育及び学園生活の充実を最優先とする。

なお、当基本方針を実施するため、次のことについても合意を得た。①極めて貴重な立地条件ではあるが限られた容積であることを念頭に、各学科の占有面積は現在の60%～85%程度に抑えること。②そのための手段として、学科間での協議のもと、共同利用できる施設を検討し、効率的活用を検討するとともにキャンパス内の広場・屋上等も教育研究上の積極的活用を検討する。

同基本方針は同年12月25日の理事会・評議委員会にて承認され、同日理事長裁定による中野キャンパス整備推進体制が通達された。当推進体制は、中野キャンパス整備委員会、整備事務室及び法人事務局によるプロジェクトが組織され、2014年7月竣工に向けて、各課題について協議している。

また、近隣に民間企業が所有する土地の借地権契約が締結する方向に進んだため、2014年7月までに芸術学部全学科の3・4年次生は中野地区に集約できる計画となった。

## （2）キャンパス・アメニティ等

### 【現状の説明】

#### （1）キャンパス・アメニティの形成・支援のための体制の確立状況

学内環境整備は中野キャンパス整備委員会で調整し、法人事務局管理課中野担当が実施している。

#### （2）「学生のための生活の場」の整備状況

学生食堂は、学生会館2階に設置している。売店は、学生会館1階に設置している。学生ホールとして、2号館1階にピロティを設置している。また中庭にテーブル等を置き、晴天時に学生が歓談等に利用できるようにしている。健康増進法施行や学生連絡評議会での学生の要望を受け、2003年9月からキャンパス建物内を全面禁煙としたが、屋外における分煙が不十分であったため、2008年に喫煙室を1室設けるとともに、屋外喫煙場所を学生のメイン動線から外し、より徹底を図っている。

#### （3）大学周辺の「環境」への配慮の状況

キャンパスが住宅街にあるため、授業や学生の課外活動等で周辺住民に迷惑をかけないよう、室外機の騒音軽減や時間外利用届出の徹底などを実施し、配慮している。

また、中野キャンパス整備工事では、騒音・振動及び工事車両の通行等で多大な迷惑をおかけすることから、住民を対象とした整備計画説明会を2008年12月に実施、工事計画説明会を2009年3月に実施した。

### 【点検・評価】【長所と問題点】

大学と学生との意見交換の場である学生連絡評議会で学生側から出された環境改善の要望・提案に対しても可能な限り実現できるよう、キャンパス整備委員会で検討しており、学生の声を生かしてキャンパス・アメニティを形成・改善する体制が確立されている。

キャンパス・アメニティ整備に当たっては、キャンパスが住宅街の中にあるため、近隣には十分な配慮が必要となっている。

## （３）利用上の配慮

### 【現状の説明】

現在車椅子等の補助具を用いる障害を持つ学生が在籍していないため、キャンパスバリアフリー化プランは現在は具体的には策定されていないが、中野キャンパス整備後の施設には十分配慮している。

なお、比較的竣工が新しい芸術情報館、図書館にはスロープ、エレベーターが設置されているほか、学生の利用頻度の高い学生食堂ルネッサンスにもエレベーターを設置済みである。

### 【点検・評価】【長所と問題点】

敷地が狭隘で建物が老朽化しているものが多く、図書館、芸術情報館及び学生ホールの建物を除いて、エレベーター等の設備が殆ど整備されていない。キャンパス整備後の建物には、エレベーター、スロープ、及び障害者用のトイレを設置する計画となっている。

## （４）組織・管理体制

### 【現状の説明】

キャンパス環境の整備全般については、大学協議会の下に設置された中野キャンパス整備委員会が連絡・調整を図り、検討された事項の執行や既存施設・設備の維持管理については法人事務局管理課が担当するといった体制で行われている。またキャンパス内の安全管理権限者として、危険物取扱主任者、防火管理責任者、電気主任技術者が任命され、施設・設備の安全管理を実施している。

### 【点検・評価】【長所と問題点】

前述のとおり体制が確立されており、キャンパス整備や施設・設備等の維持・管理は円滑に行われている。キャンパス内の施設・設備等の一部では竣工時期が古く、基礎資料となる竣工図面や施設・設備現況表が欠損している場合がある。



### (3) インターネット利用（通信）量

学内からのインターネット利用（通信）量は、年々大きく増加する傾向にある。主な使用用途が web 閲覧であるため、インターネットから大学内へのダウンロード通信量が多い。各回線の通信量を図 8-6～図 8-8 に示す。

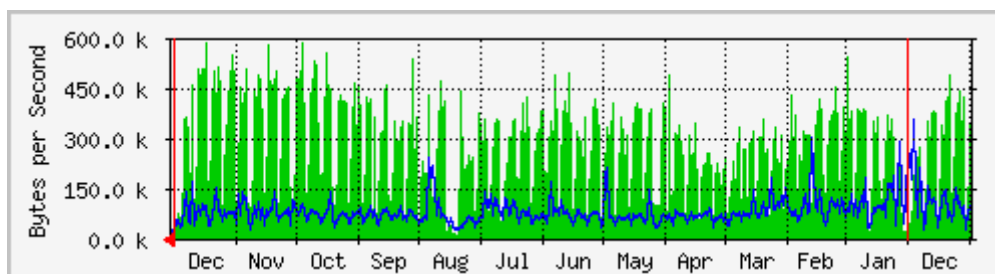


図 8-6 厚木キャンパスインターネット接続回線の通信量(2008年)

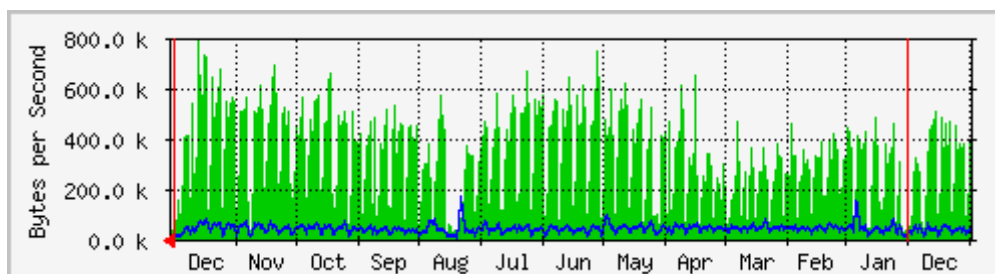


図 8-7 中野キャンパスインターネット接続回線の通信量(2008年)

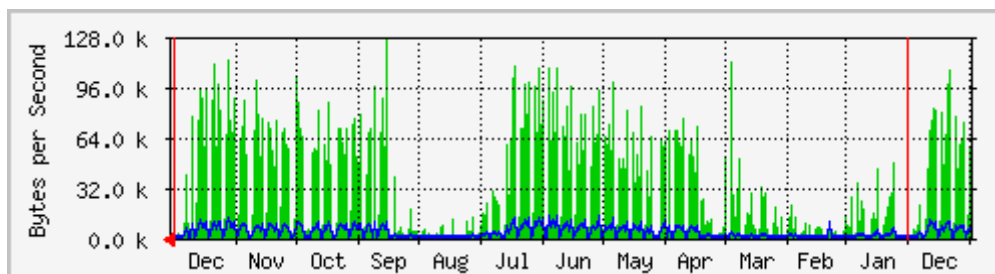


図 8-8 PC 演習室インターネット接続回線の通信量(2008年)

### (4) セキュリティー対策

大学とインターネットとの接続は、耐障害性及び通信量の分散を備えたマルチホーム接続の構成である。大学とインターネット間にはウイルス防御システムを構成し、web 閲覧、電子メール、FTP における内外の通信にてウイルス防御を実施している。

### (5) 計算サーバ

PC の性能向上等に伴い、計算サーバ装置の CPU 使用時間は 2003 年度をピークに減少し使用率が低くなったため、2007 年 9 月に廃止された。

### (6) 私立大学等経常費補助金特別補助による整備

私立大学等経常費補助金特別補助（高度情報化推進メニュー群—情報通信設備（借入）支援）「像情報教育研究支援システム」の補助金を利用して、情報ネットワーク・システムを整備した。

## 【点検・評価】【長所と問題点】

### (1) 学務情報インフラ整備

管理部門においては、共通のシステムが導入されたことにより、キャンパス間で一元的な処理が効率よく行われるようになった。教学部門においても業務の効率化が図られているが、教務関係は複雑な履修規程に合わせたプログラムの開発が困難なため、十分な運用がなされていない面もある。

### (2) インフラ整備における今後の課題

サーバの利用動向としては、ログイン可能なサーバにリモートログインし、作業を行う例は年々減少し、電子メール及びホームページの利用のための HTTP、POP、FTP アクセスが増加している。特に HTTP の増加が顕著で、通信遅延の原因となっている。

キャンパス間接続においては、今後事務システムでの利用や学内情報配信の増加、キャンパス間での教育研究上での有益なデータ転送により利用量の増加が予測されるので、高速データ通信設備を充実させる。

厚木・中野両キャンパスで無線 LAN の需要が高まっており、ノート PC の無線 LAN 搭載機も増えているため、要望に応じた無線 LAN 設置を検討していく。

### (3) セキュリティ対策の強化

ウイルスチェックシステムによるメール、web 閲覧、FTP において、ウイルス侵入防止により、インターネットを通じてウイルスが侵入することは殆ど認められなかった。しかし、USB メモリや FD、もしくはモバイル端末が外部汚染され、それを学内で接続したことによるウイルス被害は認められた。学外で使用し感染した PC や USB メモリ及び FD などの使用、外部 ISP の利用等に際しての、ウイルス防御の重要性や防御方法の教育を行っていく必要がある。また、年々増加しているスパムメールへの対策も必要である。

## 【施設・設備等に関する将来の改善・改革に向けた方策】

### (1) 厚木キャンパスの整備

教育環境の改善として、「長期的見通しに立った利用と財政的状況を踏まえ、老朽化校舎等の改築及び教育機器の性能の向上や教育内容・方法の改善に対応した施設・設備の整備を図るものの、既存施設の有効利用を進め、無駄な投資は極力避ける。」として本学中期計画を策定している。

2008 年度から、中規模以上の改修工事やメンテナンス工事については、監理監修会社と契約し、工事規格の設定、複数の工事会社への説明、見積合わせ及び竣工後の検収等を委託しており、工事内容の精度向上と経費削減ができています。

厚木キャンパスの学内人口は、中野キャンパスの整備の進捗に合わせて、芸術学部収容定員の一部を中野キャンパスに移動することから確実に減少する。そのため、既存施設に多少のゆとりが発生するため老朽化校舎等の改築は予定しておらず、今後発生する遊休施設等の洗い出しを行い、教育内容・方法の改善に対応した施設・設備の提案及び転換が当面の課題である。

### (2) 中野キャンパスの整備

中野キャンパスでは、キャンパス移転等の検討をしていたが、結論にいたる見通しが立たなくなったため、2007 年 10 月のグランド策定委員会にて、次の基本方針が決定された。

①芸術学部全学科（当面デザイン学科ヒューマンプロダクトコースは除く）の3・4年次生を中野キャンパスに集結する。②中野キャンパスをメディア芸術の拠点とする。③学生の教育及び学園生活の充実を最優先とする。同基本方針は同年12月25日の理事会・評議委員会にて承認され、同日理事長裁定による中野キャンパス整備推進体制が通達された。当推進体制は、中野キャンパス整備委員会、整備事務室及び法人事務局によるプロジェクトが組織され、2009年4月着工に向け協議を実施した。また、中野区本町2丁目の校舎から徒歩2分に位置する宮園自動車所有地を長期間に亘る借地計画が浮上し、宮園自動車株式会社と賃貸借契約の協議を進めるとともに、当敷地の校地利用としての計画を進めることとなった。当計画が支障なく遂行されれば、2014年に芸術学部全学科の3・4年次生が中野キャンパスに集結する。

### **(3) 情報インフラ環境の整備**

厚木キャンパスにおいては、プロキシサーバの強化、高速なPC演習室インターネット接続回線の使用等でHTTP通信の増加に伴う通信遅延対策を行う。また、研究・教育環境の充実のため、施設・設備の整備や導入された施設・設備の使用状況や関連する研究成果を集約し、運用ルールを策定する。

中野キャンパスにおいては、新校舎建設に合わせ、時代にあったIT環境の整備に努める。運用体系にあわせ、必要であれば厚木キャンパスとは違った運用ポリシーを策定する。

情報インフラ環境の充実や効率化を図るため、従来の大型計算機や情報処理演習室の管理をメインとした集中管理型の体制を、ネットワーク・情報管理をメインとした分散管理型に移行させ、各学部・学科の特性に合わせた柔軟性や機動性を確保させる。

サーバ・ネットワーク保守費用やネットワーク障害に対する迅速な対応など、管理運営コストが年々増加する傾向にあるので、外部資金の活用やアウトソーシングの積極的利用等を検討し、コスト抑制を図る。